

2024年度

校内研究報告書

昭島市立富士見丘小学校

研究テーマ

創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童の育成
～言語力・課題解決力・情報活用力を働かせた探究的な学びを通して～

目次

- 01 - 研究構想
- 02 - 研究の目的と検証方法
- 03 - 言語分科会
- 04 - 課題解決分科会
- 05 - 情報分科会
- 06 - 研究のまとめ
- 07 - 令和7年度の校内研究

01

研究構想

令和3度から研究テーマを継続し、
より児童の実態に即した、研究実践をすすめてきました。

01

令和6年度 昭島市研究奨励校 富士見丘小学校

学校教育目標

人権尊重の精神を基調に、予測不可能な課題に対峙し、協働して未来を創造する社会の一員として、持続可能な社会づくりに貢献する資質・能力を育むため、SDG s の目標に関連させた学習を展開し、心身共に健康で創造性に富み、調和のとれた児童を育成する。

目指す児童像

自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導くことができる児童

研究主題

創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童の育成

— 情報活用力・言語力・課題解決力を働かせた探究的な学びを通して —

研究仮説（目標）

学習の基盤となる情報活用力・言語力・課題解決力を育成することで、実際の社会や生活で生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、答えのない課題に最善解を導き、新たな価値を創造することができる資質能力を身に付けることができる。

〔言語分科会〕

育てたい資質・能力

学校図書館を活用し、すべての学びの基盤となる言葉の力を育成する。

取組みの柱

- 学校図書館の利活用
- 知的活動（論理的思考）としての言語活動
- 感性・情緒の基盤としての言語活動
- 伝え合いの道具としての言語活動

〔課題解決分科会〕

育てたい資質・能力

自分で考え自分の言葉で表現し、対話や協働を通して、納得解を生み出す力を育成する。

取組みの柱

- 自主的な問いづくり
- 実際に自分の目で見えるフィールドワークの充実
- 思考ツールの有効な活用
- 次の課題につながる振り返り・自己評価

〔情報分科会〕

育てたい資質・能力

ICTを活用した情報活用能力を育成し、論理的に思考し、新しい価値を創造する力を養う。

取組みの柱

- 情報機器の基本的操作の系統的な育成
- 情報活用の実践力
- プログラミング・プログラミング的思考
- 情報モラル教育の推進

令和6年度 研究構造図〔言語〕分科会

研究主題

創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童の育成

— 情報活用力・言語力・課題解決力を働かせた探究的な学びを通して —

言語分科会の重点

全ての学びの基盤となる言語力を働かせながら探究的な課題解決に取り組むことで、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童を育成する。

そのために、「本に親しむ場」であるだけでなく、各教科等における課題解決的な学習、探究的な学習を支えるとともに、主体的・対話的で深い学びを効果的に進める場でもある学校図書館を利活用する。

育てたい資質・能力

A1 図書館活用力

図書館資料から情報を収集・分析・評価し、論述することができる。

取組みの柱

○学校図書館の利活用：幅広い読書を通し、必要な知識を得たり、自分の考えを広げたりする。

A2 論理的思考力

概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりすることができる。

取組みの柱

○知的活動としての言語力向上：言葉を手掛かりとしながら論理的に思考したり、表現したりする。

A3 感性・情緒力

体験から感じとったことや想像したことを、豊かに表現することができる。

取組みの柱

○感性・情緒の基盤としての言語力向上：言葉を手掛かりとしながら豊かに想像したり、創作したりする。

A4 伝え合う力

互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを、発展させることができる。

取組みの柱

○伝え合いの道具としての言語力向上：考えや伝えたいことを適切に表現し、伝達するための語彙を増やす。

○学校図書館の体系的な活用計画・指導計画を策定し、図書館を活用した実践授業を行う。
○朝読、読書記録、読書感想文、読書郵便等による読書の習慣化、読後の言語化、共有化を図る。
○週1回「短作文チャレンジ」を実施し、バランスよく言語能力を伸ばすテーマ・条件を設定する。
○年1回「思索コンテスト」を実施し、より深く考えるためのテーマ設定を行う。
○国語科「読む」単元を充実させる。（課題解決的な「読み」を提案する授業研究）
◇北里大学の研究を通して、書く力・読む力を中心とした言語能力の成果検証を行う。

令和6年度 研究構造図〔課題解決〕分科会

研究主題

創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童の育成

— 情報活用力・言語力・課題解決力を働かせた探究的な学びを通して —

課題解決分科会の重点

探究学習とは、答えのない問いに向き合い、自らの可能性に気付く学びである。自ら課題を見付け粘り強く課題を探究し、協働しながら新しいものを創造していく資質・能力を育てるために、様々な課題解決方法を実践的に学び、活用していくことが大切である。
本分科会では、自分で考え自分の言葉で表現し、対話や協働を通して、納得解を生み出す力を育成することを目指す。

育てたい資質・能力

B1 課題設定力

児童自ら課題を発見し、「問い」「仮説」を立てることができる。

取組みの柱

○関心をもちやすい課題提示…身近な素材や児童自身もつ疑問、イメージとのギャップなどを生かし、児童に課題意識を持ちやすくして、問題提起をさせる。

B2 情報収集力

フィールドワーク等、自分の目で確かめ、自分で感触を確かめる調査・実験・観察等を行うことができる。

取組みの柱

○実感を伴うフィールドワーク…新たな発見や疑問の解決等、「目的のある体験」を通して課題解決に向けた情報収集させる。

B3 整理分析力

多様な情報を、思考ツールを活用して、比較・分類、関連付け、構造化することで、課題解決策を見出すことができる。

取組みの柱

○豊富な思考ツールの知識・活用…豊富な思考ツールの中から適切なものを選択し、課題解決に活用する。

B4 振り返る力

自ら振り返り、自己評価を基に、学びの成果を内面化・言語化し、物事の本質を見極め、新たな課題を見出すことができる。

取組みの柱

○単元全体のゴールを明確にさせ次のステップに生かしていくため振り返りや自己評価をさせる。

○『ふじみ探究ノート』（学びの本質を変える探究メソッド）を作成・活用・検証し、すべての学年が多様な教育活動において探究的な学びを通して、学習の基盤となる資質・能力を育成することで、正解のない課題に納得解を導き、新たな価値を創造できる力を身に付けていく。
◇「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加を通して、課題解決力の成果検証を行う。

令和6年度 研究構造図〔情報〕分科会

研究主題

創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く児童の育成

— 情報活用力・言語力・課題解決力を働かせた探究的な学びを通して —

情報分科会の重点

児童が探究学習をする上で、情報機器は、情報源を豊かにしたり、たくさんの情報を整理・分析したり、納得いくまで表現の試行錯誤をしやすくしてくれる有効的な手段である。
本分科会では、ICTを活用した情報活用力を育成し、論理的に思考し、新しい価値を創造する力を養うことを目指す。

育てたい資質・能力

C1 情報機器基本操作

安全・安心に、手段の基礎的な操作ができる。

取組みの柱

○『教育の情報化ガイドブック』（ふじみGIGAスクールスマート構想、他ブレとの約束、ロードマップ、基本的操作簡易マニュアル等を含む）の策定・活用

C2 情報活用実践力

情報手段の特性等を理解し、課題や目的に応じた適切な活用し、発信・伝達ができる。

取組みの柱

○教科の学びを深め学びの本質に迫るための1人1台端末による新たな授業スタイルの視点で、新たな学びの構築

C3 プログラミング

問題解決の手順・順序を理解し、コンピュータの特性をいかして思考・判断・表現し、簡単なプログラムができる。

取組みの柱

○プログラミング教育の意義や目的を整理し、効果的な指導資料等の開発活用

C4 情報モラル

自他の情報を大切にし、情報社会や情報手段の特性の理解と、安全かつ適切に情報手段を活用しようとする考え方と態度を身に付けている。

取組みの柱

○SNS東京ノートや情報モラル教育サイトなど、指導資料の整理・活用

○全ての教科において、1人1台端末を効果的に活用する年間指導計画を作成・実践・記録
○情報活用能力育成指導計画を作成(6年間の系統性)し、授業実践・検証
○プログラミング教育の指導計画を作成(6年間の系統性)し、それに基づく授業実践(年3回×6年間)
○情報モラル教育の指導計画を作成(6年間の系統性)し、それに基づく授業実践(年3回×6年間)
◇上記の授業実践を通して、児童の情報活用能力の成果検証を行う。

02

研究の目的と検証方法

児童の資質・能力の向上を目指して、
効果的な指導技術や手立てを研さんしてきました。

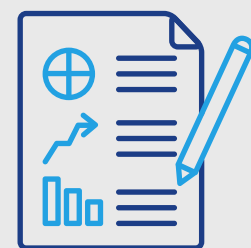
02

学習の基盤づくり

言語力
課題解決力
情報活用力

◎ 3つの柱を基盤として
児童の**学力向上**を目指す

◎ 学びを蓄積する



指導力の向上

言語分科会
課題解決分科会
情報分科会

実践



共有（研修会）



成果検証



アップデート

校内研究を絡めた
年間6回の授業観察
自己研さん



探究学習の焦点化

学ぶことって楽しいね！

- ◎ 6年間を見通した、
系統的な学びの構築
- ◎ 教科横断型の深い学び
（カリキュラムマネジメント）

探究的な学びの
基礎を築く





言語力

◎図書館を活用した年間指導計画に基づいて授業を実施する。児童の様子や授業実践を記録し、その効果を分析することで、次年度への成果と課題を検証する。

◎年度初めと年度末に児童アンケートを実施し、児童の変容を比較・検証する。その結果を次年度に生かすことで、児童の学びを蓄積していく。



課題解決力

◎探究ノートを活用し、探究的な学びの基礎を築いていく。思考ツールを使って、児童の考えを広げたり深めたりする手立てとし、6年間で系統的に探究的な学びを蓄積していく。探究ノートは、実際に活用してその効果を検証、ミニ改訂を行う。

◎年度初めと年度末に児童アンケートを実施し、児童の変容を比較・検証し、次年度の探究学習に生かす。



情報活用力

◎情報活用年間指導計画に基づいて、情報モラルやマナーについて、系統的な指導を実施し検証していく。

◎情報機器「MESH」を活用して、プログラミング的思考を育み、生活や学習の中で情報を上手に活用していく力を検証していく。

◎年度初めと年度末に児童アンケートを実施し、児童の変容を比較・検証し、6年間を見通して系統的に学びを蓄積していく。

03

言語分科会

育てたい資質・能力

- A1 図書館活用力
- A2 論理的思考力
- A3 感性・情緒力
- A4 伝え合う力

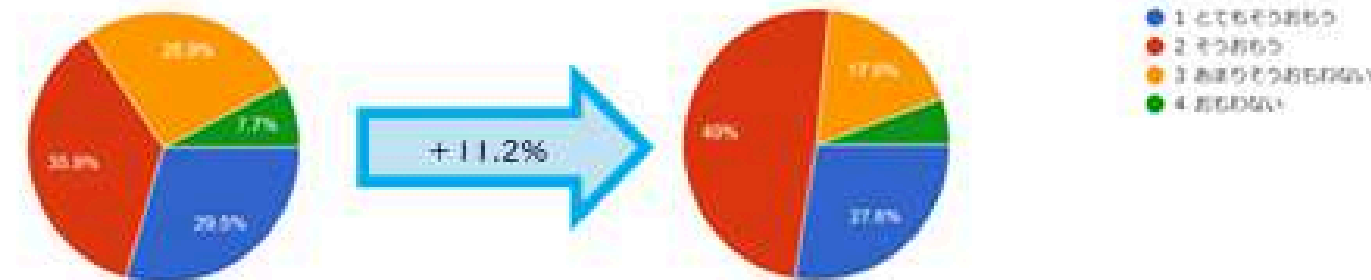
03

言語学習アンケートの分析と考察（低学年）

言語分科会では、低・中・高学年に分け、発達段階に応じた児童アンケートを実施。7月と1月のアンケート結果を比較することで今年度の分析と考察を行った。

A1 本の中から必要なことを見つけることができる。（『とてもそう思う・そう思う』と肯定的に捉えている児童）

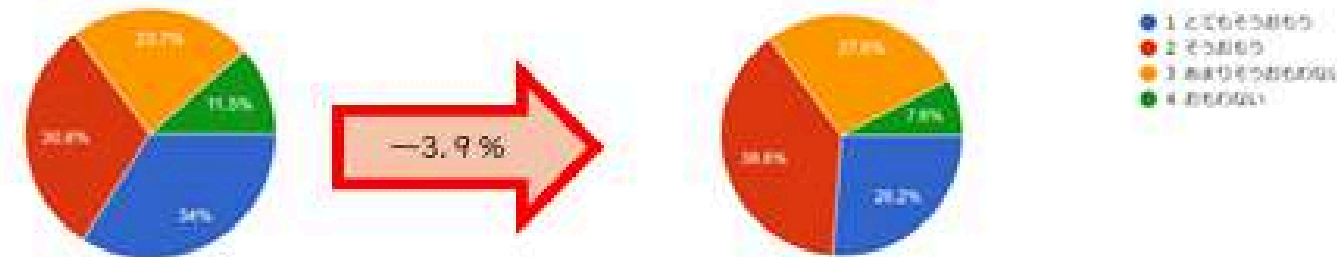
ほんのなかから ひつようなことを みつけることができますか。
145 件の回答



A1 肯定的に捉えている児童が約7.5割（111人）となり、本から必要な情報を読み取ることに慣れてきたと考えられる。また、全体的に肯定的な意見の方へ増えている傾向がある。様々な言語活動で、図書館利活用を進めた成果が出ているためだと考える。

A2 文を書く時にまとまりに分けて書いている。（『思わない』と肯定的に捉えている児童）

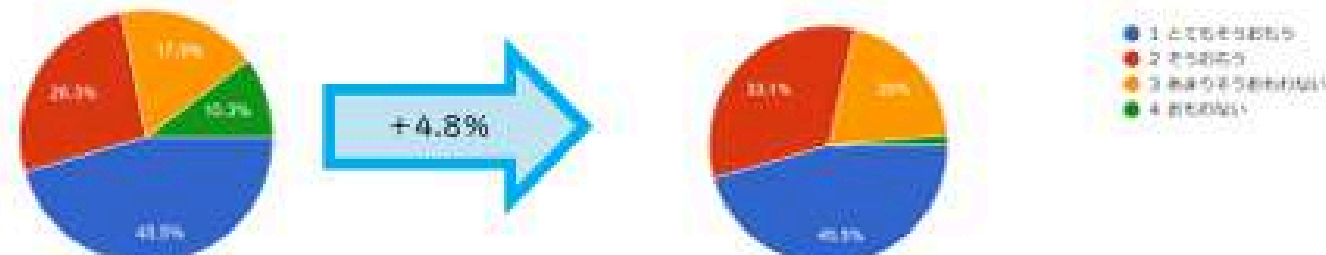
ぶんをかくときに まとまりに 分けて かいていますか。
145 件の回答



A2 年度当初から約6割（94人）の児童が肯定的に捉えており、変化がなかった。また、とてもそう思うという児童が7.8%減ってしまった。一方で、思わないと否定的に捉えている児童は3.9%減っているため、多少の底上げはできている。まとまりに分けて書くとはどういうことなのか、という理解ができていると考えられる。

A3 ことばのリズムのよさを感じて読んでいる。（『とてもそう思う・そう思う』と肯定的に捉えている児童）

ことばの りずむの よさを かんじて よんでいきますか。
145 件の回答

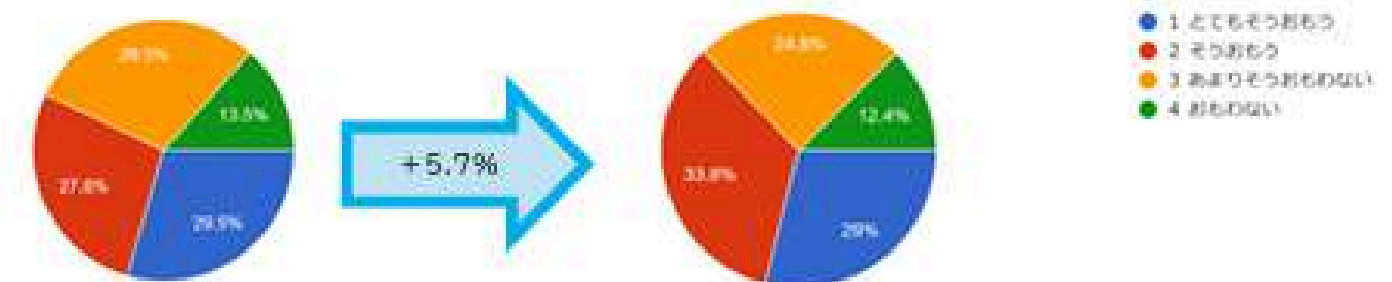


A3 肯定的に捉える児童が増え、約8割（114人）の児童が言葉のリズムのよさを感じて読むことができるようになった。同時に、思わないと否定的に捉えていた児童が8.9%減り、底上げができたと考えられる。

言語学習アンケートの分析と考察（低学年）

A4 やったことや読んだことの感想を書いたり話したりしている。（『とてもそう思う・そう思う』と肯定的に捉えている児童）

やったことや よんだことの かんそうを かいたり はなしたり していますか。
145 件の回答



A4 約6割（93人）が肯定的に捉えている。一方で、依然として、否定的な児童が約4割（54人）いる。これは、短作文などの活動を通して、やったことなど実体験を伴うことについては、書いたり、話したりすることができるようになってきたが、物語などを読んだ感想については何を書いたら良いのか分からない児童がいるのだと考える。

課題

A1 それぞれの項目で肯定的な児童が増えたが、一方で約2割の児童は否定的に捉えていることが分かった。本から必要な情報を読み取ることが困難な児童が多いため、支援が必要な児童には教師側が資料を抜粋するなどして、読み取りやすくさせることで、苦手意識を軽減させていく必要があると考える。また、マトリクス表や、クラゲチャートを用いることで、児童が調べたことを書き出しやすくするなど、思考ツールの工夫をしていくことも合わせて必要であると考えられる。

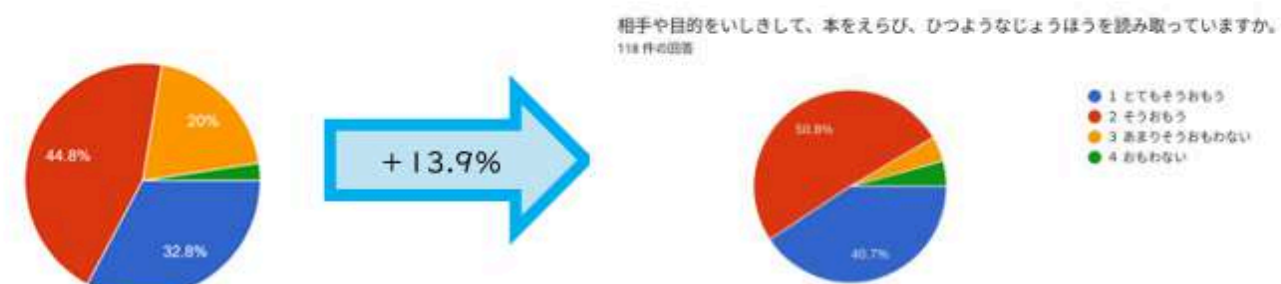
A2 「文を書く時にまとまりに分けて書いている」の項目については、「約70%の児童が肯定的に捉えているため、そもそもまとまりに分けて書くとはどのようなことなのか、という知識がないと考えられる。そのため、低学年では、①出来事②詳細③感想のまとまりに分けて書く指導を取り入れ、児童がまとまりとは何かという理解を深めていくことで、意識を変えていくことが必要だと考える。

A3・A4 「やったことや読んだことの感想を書いたり話したりしている」という項目については、そもそも「お話を読んだ感想を持っていますか。」という項目について、肯定的な児童が65.6%と低い。お話を読んだ後に感想をもてない児童が多いことが分かった。そのため、国語科や読書の時間を利用して日ごろから、読み聞かせなどを行い、様々な本の世界に臨ませる機会を増やしていく必要があると考える。また、どのように感想を持ったらよいか、「たのしい」「また読みたい」「どこで読んだ」など感想の語彙を増やしていく必要もあると考える。そうすることで、感想をもてるようになり、書いたり話したりすることができるようになる。と考える。

* 今後はより児童の変容が分かりやすいように、学年毎にアンケートを実施する。

言語学習アンケートの分析と考察（中学年）

A1 相手を意識して本を選び、必要な情報を読み取っている。（「とてもそう思う・そう思う」と肯定的に捉えている児童）



A1 約9割（108人）の児童が、相手を意識して本を選び、必要な情報を読み取ることを肯定的に捉えている。その要因として、3年「すがたをかえる大豆」や「三年とうげ」、4年「もしものときにそなえよう」や「工芸品のみりょくを伝えよう」などの単元で、必要な情報を本から読み取る活動を行ったこと。また図書資料を活用した指導の際に、学習過程を見ることが理解し学習を進めたため、相手を意識に合う本を選ぶことに自信がついた児童が増えたと考えられる。

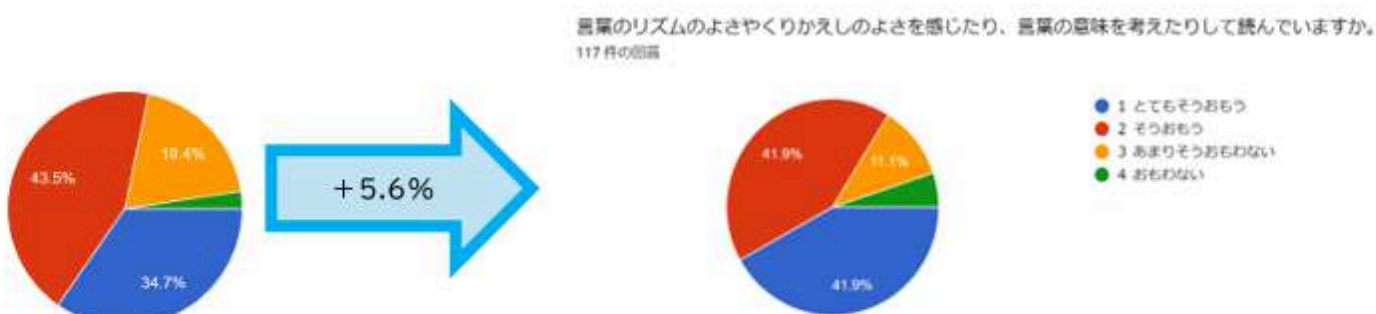
A2 文を書くとき、はじめ・中・終わりに気をつけて書いている。（「とてもそう思う・そう思う」と肯定的に捉えている児童）



A2 約8割（98人）の児童が、文を書くとき、はじめ・中・終わりに気をつけて書くことを肯定的に捉えている。その要因として、文章構成を意識した書き方を短作文の時間に継続して指導したことや、説明文の単元で、文章構成を意識した読み方をしたこと、児童の理解がより深まり、文章構成への抵抗感も少なくなったのではないかと考えられる。

A3 言葉のリズムのよさや、くりかえしのよさを感じたり、言葉の意味を考えたりして読んでいる。

（「とてもそう思う・そう思う」と肯定的に捉えている児童）



A3 約8割（98人）の児童が言葉のリズムのよさや、くりかえしのよさを感じたり、言葉の意味を考えたりして読むことを、肯定的に捉えている。その要因として、物語の音読で語感のよさを味わう経験や、詩を書く学習、辞書を引く活動を通して、語彙を豊かにしたことが、児童の自信につながったのではないかと考えられる。

言語学習アンケートの分析と考察（中学年）

A4 文章を読んだり、体験したりした感想などを友達と伝え合っている。（「とてもそう思う・そう思う」と肯定的に捉えている児童）



A4 約9割（99人）の児童が、文章を読んだり、体験したりした感想を友達と伝え合うことを肯定的に捉えている。前年度の課題であった自分と他者の考えや感じ方が違うことの良さを、ペアやグループでの活動を充実させたことで気づき、伝え合いが楽しいと感じる児童が増えたのだと考えられる。

課題

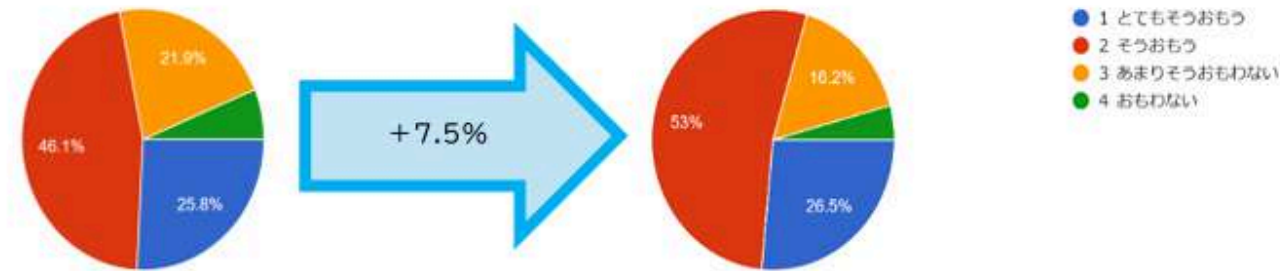
A1 図書館活用力「集めた情報を比べたり、種類ごとに分けたりすることができる。」という項目では、肯定的に捉えている児童は少なく、クラスでは5人程度苦手意識をもつ児童がいる。また、A2 論理的思考力「文章を読んでわかったことについて、感想や自分の考えをもっている」という項目においても、肯定的に捉えている割合は増加しているものの、一定数の児童は苦手意識を持っている。考えられる要因として、情報を比べたり分けたりする学習や自分の考えをもつ学習はしているが、自分の身に付いた力として実感をもてていないと考えられる。そのため、授業の終わりに自分の学びを振り返る時間を作ることで、児童自身が学習を通して身に付いた力を実感できるようにしていきたい。

A3 感性・情緒、A4 伝え合いの項目では、伝え合うことに自信を持ち取り組める児童は増加したが、分かりやすく伝えることにおいては、肯定的に捉えている児童の割合は全項目で一番低かった。日々の児童の様子から、他者に自分の考えを伝えることはできるが、分かりやすく伝えることには自信が持てない児童の姿が見受けられる。そのため、班で話し合う活動を設定したり、自分の考えを推敲する活動を取り入れたりして、児童が自信をもって伝え合いができる学びの場を充実させていく。

＊ 今後はより児童の変容が分かりやすいように、学年毎にアンケートを実施する。

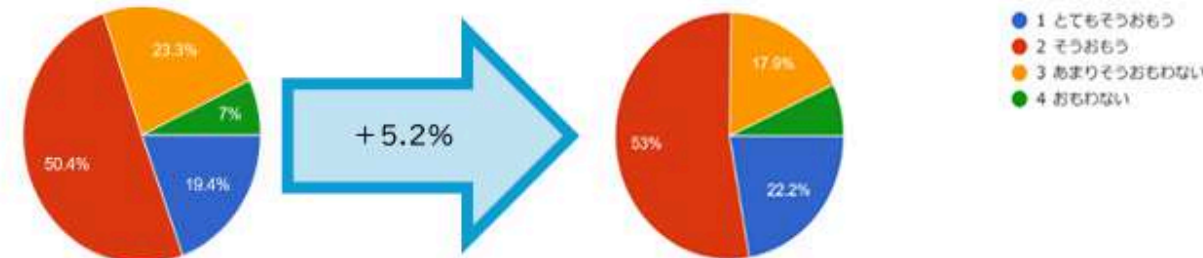
言語学習アンケートの分析と考察（高学年）

A1 情報を整理分析したり関連付けたりすることができる。（「とてもそう思う・そう思う」と肯定的に捉えている児童）



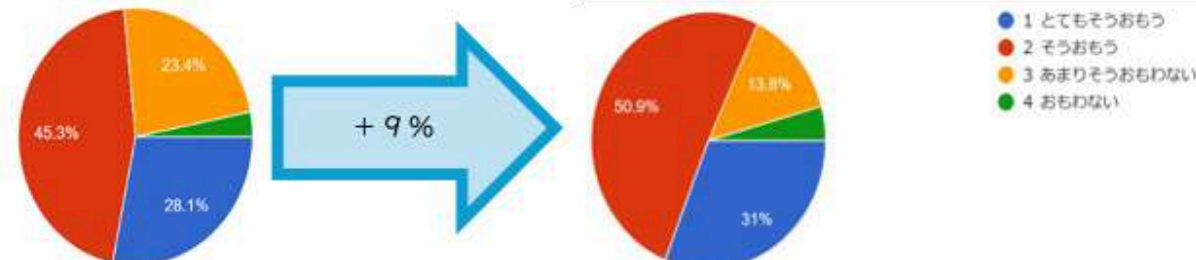
A1 8割以上（約90人）の児童が肯定的に捉えている。総合的な学習の時間や各教科の学習に行った図書館利用の成果だと思われる。また、図書館利用計画に基づいて、教材や使用場面、内容を精査しながら授業を進めたことも影響していると考えられる。その結果、効果的に図書資料やインターネットの情報などから、自分たちに必要なものを選んだり、情報同士のつながりを見付けたりする力が伸びたと考えられる。

A2 構成を考えて文章を書くことができる。（「とてもそう思う・そう思う」と肯定的に捉えている児童）



A2 7割以上（約80人）の児童が肯定的に捉えている。7月に実施したアンケートの結果と比較すると、全体的な数値では増加しているが、今回実施したアンケートで肯定的に捉える児童が最も少ない項目である。設問に「序論・本論・結論を意識して～」と記載していたため、用語を適切に理解せずに回答していることも考えられる。また、国語科の書く単元や短作文ノートの取り組みにおいて改めて「初め・中・終わり」の文のまとめや文章構成を意識して書くように指導していく必要がある。

A2 文を書くときに、図表やグラフなどの資料を使って、根拠を明確にしながら、自分の考えを書いていますか（「とてもそう思う・そう思う」と肯定的に捉えている児童）

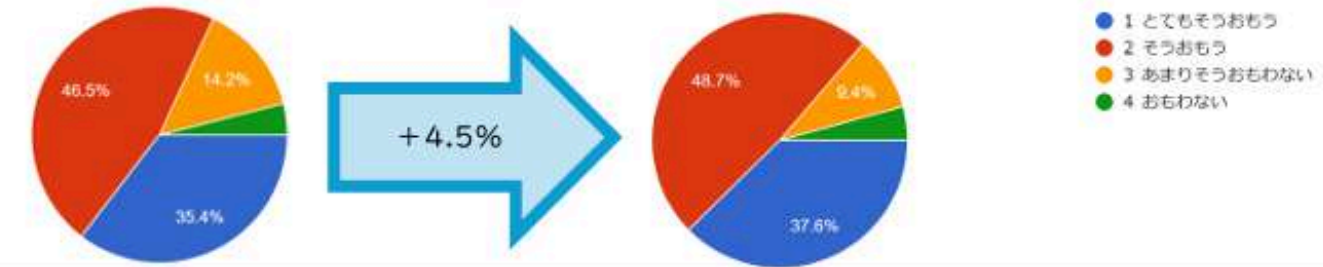


A2 8割以上（約90人以上）の児童が肯定的に捉えている。また、7月のアンケート結果と比較すると、最も上昇率の高い項目となった。国語の単元での活動が大きな要因として考えられる。【5年生】「みんなが使いやすいデザイン」「固有種が教えてくれること」などの書く単元の学習時に意識付けられた。【6年生】「発見、日本文化のまりょく」の単元で、日本文化の魅力を書き上げる活動があった。その際に、外国との違いを明確にするためにデータを用いて伝えた。説得力のある文章にするために、数値化されたデータを使用することや図表を利用することの重要性にも気付くことができた。総合や社会のまとめでも説得力をもたせるために図表を効果的に活用することを意識させた。教科横断的に学習を進められたことが大きな伸びにつながったと考えられる。

言語学習アンケートの分析と考察（高学年）

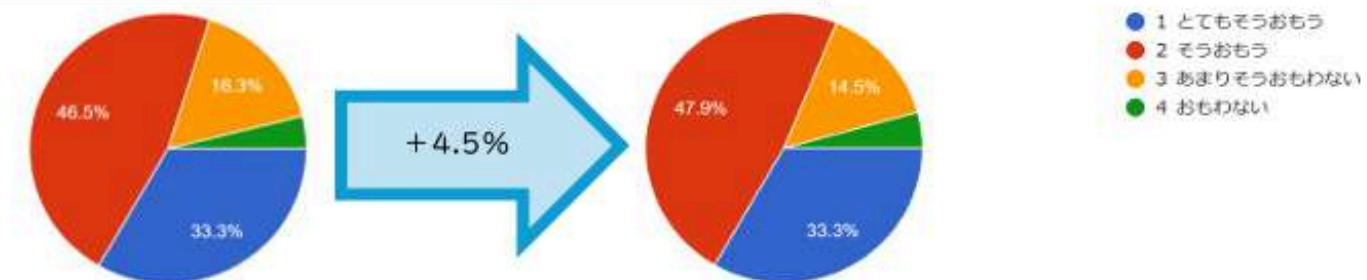
A3 理由を示しながら、相手に伝わるように、分かりやすく考えを伝える工夫をしている。

（「とてもそう思う・そう思う」と肯定的に捉えている児童）



A3 約9割（約100人）の児童が肯定的に捉えている。相手意識をもって、分かりやすく考えを伝えようとしている児童が多い。国語の話す・聞くの単元や探究の日に向けた発表など、誰に伝えるか・何を伝えるかが明確になっているため、児童も工夫しやすいように思われる。また、スライドや紙芝居、新聞などの様々な手段を用いる技能が身に付いていることも関連があると思われる。

A4 友達との話し合いで、自分やみんなの考えをより良くしている。



A4 8割以上（約90人）の児童が肯定的に捉えている。グループワークなどの取り組みによって、自分の考えと他者の考えを交流する機会が多いことが影響していると考えられる。協働する中で、お互いの考えをすり合わせて、合意形成を図ることで、よりよいものを作り上げられることのよさを感じる児童が多いことも肯定的に捉える要因の一つではないかと思われる。

課題

全項目に共通する傾向として、以下の3点が挙げられる。

- 「とてもそう思う」が「そう思う」よりもかなり低い割合である。
- 「あまりそう思わない」「思わない」など否定的な意見の割合が2割程度（約23名）。
- 「思わない」と回答する児童の割合は、7月のアンケートからあまり変化が見られない。

言語活動に対して着実に力を付けてきている一方、自信がもてず、なかなか苦手意識が払拭できていない現状がある。これらの課題の原因として、児童が振り返りの際に客観的に自己評価（「課題は何か」「何ができるようになったのか」など）ができていないということが考えられる。

そこで、児童が自分で書いた文章の出来や学習内容の習熟度合いを客観的に、自身で評価できるような仕組み（ルーブリック評価など）を生かした振り返りが効果的だと考える。明確な評価基準で課題を明らかにしつつ、成長を実感しながら学習を進めることで、言語活動を肯定的に捉える児童が増えていくと思われる。

* 今後はより児童の変容が分かりやすいように、学年毎にアンケートを実施する。

	言語分科会	目指す児童の姿		
		低	中	高
A 1 図書館活用力	図書館資料から情報を収集・分析・評価し、論述することができる。	【情報収集】 ・目的を意識して、本を選ぶことができる。 【分析・評価】 ・書くために必要な事柄を見つけることができる。 【論述】 ・内容のまとまりが分かるように書き表すことができる。	【情報収集】 ・伝える相手や目的を意識して、本を選び、情報を読み取ることができる。 【分析・評価】 ・集めた材料を比較したり分類したりしている。 【論述】 ・調べたことと考えたことを区別して書くことができる。	【情報収集】 ・目的や意図に応じて、本などの資料を選び、情報を適切に読み取ることができる。 【分析・評価】 ・集めた材料を分類したり関係付けたりすることができる。 【論述】 ・図表やグラフなどを用いて、根拠を明確にしながら、自分の考えを書くことができる。
A 2 論理的思考力	概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりすることができる。	・事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 （時系列に矛盾がない） （必要な事柄を集めたり、確かめたりしている）	・「はじめ・中・終わり」を意識して、段落相互の関係に注意しながら文章の構成を考えることができる。 （集めた材料を比較したり分類したりしている。）	・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。 （集めた材料を分類したり関係付けたりしている。）
A 3 感性・情緒力	体験から感じ取ったことや想像したことを、豊かに表現することができる。	・言葉が持つ良さを感じ、語彙を豊かにする。 ・文章や体験から感じたり想像したりしたことを、工夫して表現することができる。	・言葉が持つ良さに気づき、語彙を豊かにする。 ・伝えたい事柄や相手に応じて、文章や体験から感じたり考えたりしたことを、工夫して表現することができる。	・言葉が持つ良さを認識し、語彙を豊かにする。 ・文章や体験から考えたことを、資料などを活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。
A 4 伝え合う力	互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを、発展させることができる。	・文章を読んだり、体験したりして感じたことや、分かったことを伝え合うことができる。	・文章を読んだり、体験したりして感じたことや考えたことを伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。	・文章を読んだり、体験したりしてまとめた意見や感想について話し合い、自分の考えを広げたり、集団の考えを深めたりすることができる。

04

課題解決分科会

育てたい資質・能力

- B1 課題設定力
- B2 情報収集力
- B3 整理分析力
- B4 振り返る力

04

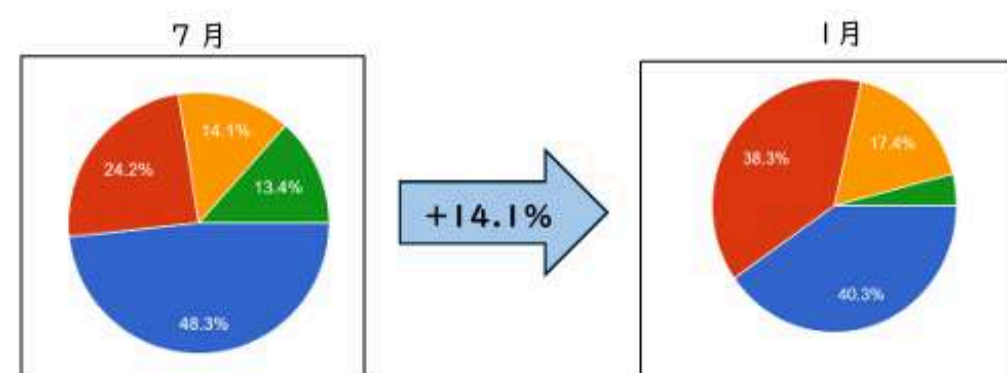
課題解決アンケートの分析と考察

課題解決分科会では、児童対象に探究的な学びに関するアンケートを実施した。7月と1月の結果を比較することで児童の変容を見取り、今年度の成果と今後の課題について検証した。探究の過程における「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り→課題設定」の4つの観点について質問し、**すべての項目において増加傾向**であることが確認できた。その中から、特に成果が大きかった観点について、以下に報告する。

(低学年)

Ⅰ 課題設定

＜設問＞じぶんのしりたいことに「なぜ」「どうして」とかかんがえることはできますか。

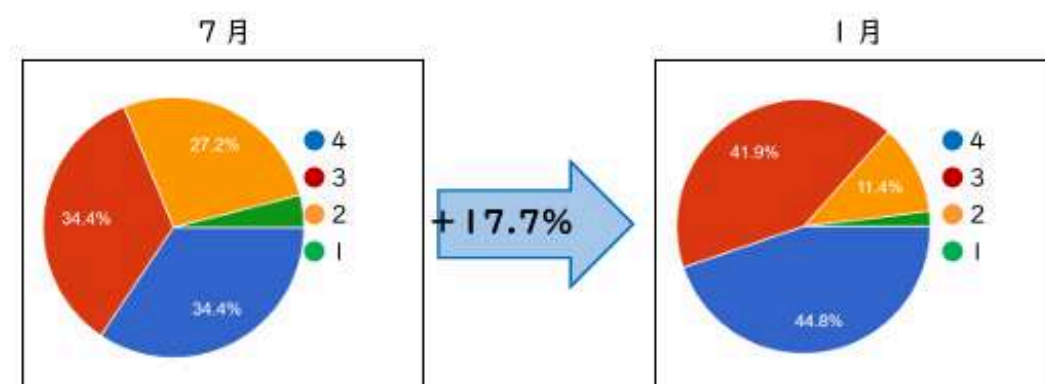


〈低学年〉7月と1月のアンケートを比べた結果、肯定的な回答が14.1%高くなった。調べる学習コンクールや探究の日に向けて疑問を解決し、その方法が明確になってきた結果だと考える。

(中学年)

Ⅰ 整理分析

＜設問＞集めた情報を、種類ごとに分けることができますか。

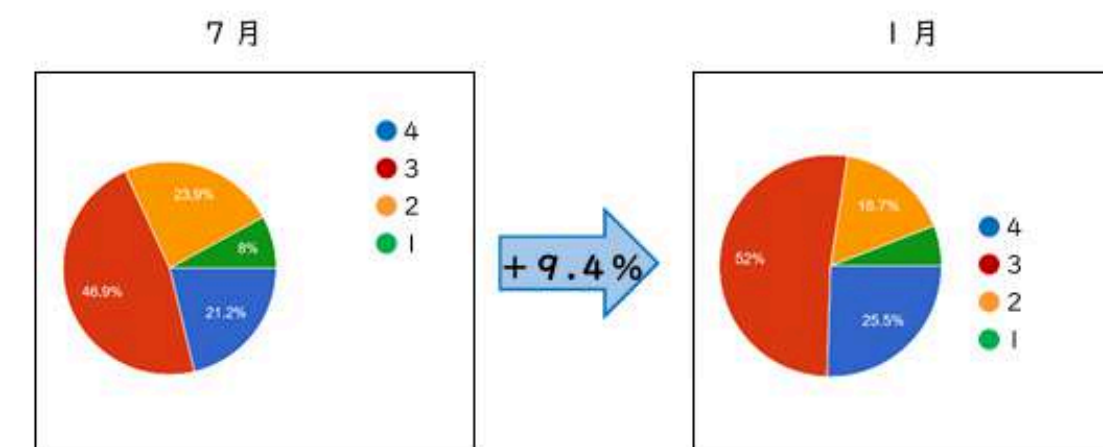


〈中学年〉7月と1月を比較すると、どの設問も肯定的な自己評価を示す値が増加する結果となった。特に「整理分析」の設問では、肯定的な回答が17.7%高くなった。1・2学期に情報収集し、思考ツール等を使用して整理分析したことを、まとめや表現につなげる活動を行った結果だと考えられる。

(高学年)

Ⅰ 振り返りから課題設定へ

＜設問＞自分の学びをふり返り、新たな課題を設定することはできますか？



〈高学年〉7月と1月のアンケートを比べた結果、全体的に横ばいであったが、「課題設定」の設問では肯定的な回答が、9.4%と高くなった。探究のサイクルが分かってきたこと、やりたいことが自分の中で明確になってきた結果だと考えられる。

課題

- 低学年** 情報収集や整理分析の項目において、あまり変容がみられず全体の8%程度「できない」と感じている児童がいることが分かった。今後は、情報収集の仕方を提示したり紹介したりすることで、児童が自分で選んだ方法で、知りたい情報を集めたり、集めた情報をカテゴリーに分けたりできるように（仲間分け）、各教科の学びの中でも意識付けていきたい。
- 中学年** 探究学習に対して肯定的な意見が全体の約9割と、前向きに取り組んでいる様子が伺える。探究的な学び方が分かってきたところなので、さらに児童の主体性を尊重したり、内容に深みをもたせたりしていきたい。
- 高学年** 探究的な学習過程の中で、一定数消極的な考えの児童がいることが分かった。（各項目において、全体の約20～30%が、消極的意見である）今後は、全体の底上げが必要とされる。これまで取り組んできて活動を価値づけ、自信をもって活動に取り組めるようにしていきたい。また、協働的な学びにおいては、約9割は肯定的に回答しているので、得意な部分を生かしながら、他者との対話や議論を深めることで、より自分たちが納得のいく探究ができるようにしていきたい。

＊ 今後は、より児童の変容が分かりやすいように、学年毎にアンケートを実施する。

児童に身に付けたい資質・能力（令和6年度作成）

※青色は児童アンケートの設問

	課題設定	情報収集・整理・分析	まとめ・表現	振り返り→課題設定
1 2	○興味や関心に合わせて、問いを決めることができる。 ・自分の知りたいことを見つけることができる。	○観察や体験を通して、情報を集め、種類ごとに分けることができる。 ・よく見たり、ためしてみたりして、知りたいことを調べることができる。 ○集めた情報を整理し、種類ごとに分けることができる。 ・集めた情報を、仲間分けすることができる。	○自分が伝えたいことを、友達と一緒に発表することができる。 ・友達と発表することができる。 ○伝えたいことを、仲間と協力して発表することができる。 ・友達と協力して発表することができる。	○学んだことを言葉や、絵や文にして振り返り、これから、さらにやりたいことを決めることができる。 ・学んだことを振り返ることができる。 ・さらに知りたいことを見つけることができる。
3 4	○自分が調べたい課題を、設定することができる。 ・自分が調べたいことや、解決したいことを考えることができる。	○目的に応じて、人に聞いたり、図書資料やタブレットを活用して調べたり、必要な情報を集めることができる。 ・知りたいことに合わせて、人に聞いたり本で調べたり、タブレットで調べたりして、情報を集めることができる。	○相手や目的を意識して、様々な表現方法を経験しながら、仲間と協力して発表することができる。 ○相手や目的を意識して、表現の仕方を工夫し、仲間と協働して表現することができる。 ・伝えたいことや、伝えたい人に合わせて発表の仕方を工夫し、友だちと発表することができる。	○プロジェクトの結果を振り返り、より深めたい課題を設定することができる。 ・これまでの総合的な学習の時間を振り返って、「もっと知りたいこと」「新たに知りたいこと」を考えることができる。
5 6	○テーマを基に、多様な視点から課題を設定することができる。 ・探究テーマを基に、様々な視点から課題を設定することができる。	○多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面やタブレットに蓄積することができる。 ・自分の目的や考えに合わせて情報を集め、タブレット端末や探究ノートなどを活用して、(情報を)分類、整理することができる。	○他教科等で培った表現力を使い、相手や目的に応じて、仲間と協働してまとめ、表現することができる。 ○他教科等で培った表現力を活用して、相手や目的に応じて、分かりやすく、仲間と協働して表現することができる。 ・これまでの経験を生かし、相手や目的に合わせて、友達と一緒に協働しながら、まとめたり発表したりすることができる。	○プロジェクトや活動結果を振り返り、多様な視点からより深めたい課題を設定することができる。 ・自分の学びをふり振り返り、より深めたい課題を設定することができる。 ・多様な視点(友達・地域・環境・歴史・くらしなど)を取り入れて課題を設定することができる。

探究課題	学校テーマ「未来をつくる富士見っ子」										学年テーマ「いのち×生活」～きせつとなかよし～		
	1学期				2学期				3学期				
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		
学習活動【時数】	単元名 わくわくどきどきはじめのいっば【4時間】 わくわくどきどきしょうがっこう【16時間】 きれいにさいてねわたしのはな【10時間】 きせつとなかよし はる なつ 【12時間】				単元名 なかよくなろうね小さなどもだち【10時間】 きせつとなかよし あき【14時間】 かぞくにここに大きくせん【10時間】				単元名 きせつとなかよし ふゆ【12時間】 もうすぐ2年生【14時間】				
	1 願いや思いをもつ 課題設定ややってみたいことを話し合い決定する。 2 フィールドワーク 体験を通して発見する。 3 情報収集 インタビューや図書資料から調べ、新たな問いをつくったり、まとめたりする。 4 整理分析 まとめたことを発表する。												
関連する教育活動	国語「としょかんへいこう」 道徳「がっこうにはね」				国語「しらせたいな、見せたいな」								
連携する施設・人材	学校の教職員				昆虫博士、昭和記念公園、保育園、幼稚園交流				保育園、幼稚園交流、家庭				
児童に身に付けたい資質・能力	【課題設定】 ○興味や関心に合わせて、問いを決めることができる。			【情報収集・整理・分析】 ○集めた情報を整理し、種類ごとに分けることができる。			【まとめ・表現】 ○伝えたいことを、仲間と協力して発表することができる。			【振り返り→課題設定】 ○学んだことを言葉や、絵や文にして振り返り、これから、さらにやりたいことを決めることができる。			

探究課題	学校テーマ「未来をつくる富士見っ子」 学年テーマ「いのち×町」～えがおのひみつ たんけんたい～										
	1学期				2学期				3学期		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
学習活動【時数】	単元名 わくわくするね、2年生【2時間】 学校たんけん【4時間】 めざせ野さい作り名人【10時間】 まちが大すき、たんけんたい【12時間】 めざせ、生きものはかせ【11時間】				単元名 えがおのひみつ、たんけんたい【28時間】 作って、ためして【20時間】				単元名 わくわくどきどきしょうがっこう【16時間】 あしたへつなぐ自分たんけん【20時間】		
	1 願いや思いをもつ 課題設定ややってみたいことを話し合い決定する。 2 フィールドワーク 体験を通して発見する。 3 情報収集 インタビューや図書資料から調べ、新たな問いをつくったり、まとめたりする。 4 整理分析 まとめたことを発表する。										
関連する教育活動	国語「かんさつ名人になろう」 国語「こんなもの、見つけたよ」 国語「メモをとるとき」				国語「そうだんにのってください」				国語「楽しかったよ、2年生」		
連携する施設・人材	1年生				地域のお店など						
児童に身に付けたい資質・能力	【課題設定】 ○興味や関心に合わせて、問いを決めることができる。			【情報収集・整理・分析】 ○集めた情報を整理し、種類ごとに分けることができる。			【まとめ・表現】 ○伝えたいことを、仲間と協力して発表することができる。			【振り返り→課題設定】 ○学んだことを言葉や、絵や文にして振り返り、これから、さらにやりたいことを決めることができる。	

探究課題	学校テーマ「未来をつくる富士見っ子」 学年テーマ「いのち×地域」～もっと発見!もっと発信(大好き昭島)～														
	1学期				2学期				3学期						
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3				
学習活動【時数】	単元名「フジミ・フォト・ワールド」【20】 1. 課題設定 富士見丘小学校の写真を撮り、お家の人に見せることで、富士見丘小学校の良さを伝える。 2. 情報収集 付箋に富士見丘小学校の良いところを書きだし、可視化する(マッピング)。 3. 整理・分析 撮った写真を吟味し、何を伝えたいかに応じて写真を選ぶ。 4. まとめ・表現 お家の人に見せる。 5. 振り返り 富士見丘小学校の良さを知った。				単元名「調べてみよう!昭島のヒミツ」【15】 1. 課題設定 昭島市のことを知りたい。 2. 情報収集 講師の石川先生に昭島の良さについての話を聞く。 3. 整理・分析 何についてくわしく調べたいか、友達と調べたことを話し合い、情報を整理する。7つの項目の中から自分が興味をもったことを1つ選び PCで調べる。 4. まとめ・表現 ポスターにまとめ、発表する。 5. 振り返り 昭島市の良さを知った。				単元名「もっと発見!もっと発信(昭島大好き)」【35】 1. 課題設定 昭島市のことをもっと知りたい、つたえたい。 2. 情報収集(社会科見学) 社会科見学に行ったり、インタビューしたりして、情報を集める。 3. 整理・分析 何についてくわしく調べたいか、友達と調べたことを話し合い情報を整理する。 4. まとめ・表現 発表ノートにまとめ、発表する。 5. 振り返り 昭島市の良さをもっと知り、発信することができた。						
関連する教育活動	社会科「わたしたちの昭島発見」 道徳「作ひんかち」(著作権)				国語科「ポスターを読もう」 社会科「市の様子」 国語科「わたしの町のよいところ」				社会科「はたらく人とわたしたちのくらし」 特別活動「情報モラル」(肖像権)						
連携する施設・人材	校長先生				講師 石川先生				社会科見学(アネシマエンス・環境コミュニケーションセンター・紅林製菓園)シマダケ・モリタウン・井上農園・布産所・水道局・カーメン屋						
児童に身に付けたい資質・能力	【課題設定】 自分が調べたい課題を、設定することができる。				【情報収集・整理・分析】 目的に応じて、フィールドワークやインタビューしたり、図書資料やタブレットを活用して調べたりして、必要な情報を集めることができる。				【まとめ・表現】 相手や目的を意識して、様々な表現方法を経験しながら、仲間と協力して発表することができる。		【振り返り→課題設定】 プロジェクトの結果を振り返り、より深めたい課題を設定することができる。				

探究課題	学校テーマ「未来をつくる富士見っ子」										学年テーマ「いのち×暮らし」～ここから発信!昭島の伝統文化～		
	1学期				2学期				3学期				
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		
学習活動【時数】	単元名「ここに発見!昭島の伝統文化」【25】 1. オリエンテーション ・テーマと探究学習の流れについて知る。 2. 課題設定 ・昭島のくらしで大切にされてきたこと・ものについて考える。 3. 情報収集 ・昭島の伝統を体験、携わる方にインタビューする。 4. 整理・分析 ・なぜ大切にされているのか、より良くするためにどのような課題があるのかについて整理・分析する。 5. まとめ・表現 ・新聞やポスターなどにまとめ、他学年に知らせる。 6. 振り返り・課題設定 ・伝統文化についてもっと知りたいことを考える。				単元名【10】 「ここに発見!昭島の伝統文化」 2. 情報収集 ・昭島の伝統を体験、携わる方にインタビューする。 4. 整理・分析 ・それぞれの伝統文化を比べて、共通点を捉え、その価値や課題を整理・分析し、まとめる。 5. 振り返り・課題設定 ・まとめた、価値や課題をふまえて、自分たちがしたいこと、自分たちにできることを考える。 →発信したい内容によってグループに分かれる。				単元名「ここから発信!昭島の伝統文化」【35】 2. 情報収集 ・発信するために、不足している情報を収集する。(本やタブレットを使用する。改めてインタビューするなど。) 4. 整理・分析 ・発信したい内容について整理・分析する。 5. まとめ・表現 ・新聞・ポスター、スライド、実演、展示など、相手と目的に合わせて表現方法を選択し、グループごとに発表する。(探究の日) 5. 振り返り・課題設定 ・発表に対するフィードバックや、これまでの活動を振り返り、「いのち×暮らし」「自分にとってのくらし」について考える。 ・5年生に探究していきたいことについて考える。				
関連する教育活動	国語「聞き取りメモのくふう」「新聞を作ろう」 「お礼の気持ちを伝えよう」				国語「未来につなぐ工芸品」 「工芸品のみりよくを伝えよう」				社会「染め物のさかんな新宿区」				
連携する施設・人材	昭島市の伝統に携わる方 (R5:東中神睦囃子保存会、藍染工房瑠璃玉)				昭島市の伝統に携わる方 (R5:落語家桂笹丸様)				1・2学期に来ていただいた方々 保護者				
児童に身に付けたい資質・能力	【課題設定】 自分が調べたい課題を、設定することができる。		【情報収集・整理・分析】 目的に応じて、人に聞いたり、図書資料やタブレットを活用して調べたり、必要な情報を集めることができる。		【まとめ・表現】 相手や目的を意識して、表現の仕方を工夫し、仲間と協働して表現することができる。		【振り返り→課題設定】 プロジェクトの結果を振り返り、より深めたい課題を設定することができる。						

探究課題	学校テーマ「未来をつくる富士見っ子」 学年テーマ「いのち×環境」～豊かな自然を守るために～										
	1学期				2学期				3学期		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
学習活動【時数】	単元名「私たちの暮らしと環境ー環境問題について考えるー」【26】 1 <u>オリエンテーション</u> ・SDGsの観点から、身の回りの環境問題について考える。 2 <u>課題設定</u> ・身の回りの環境問題から、自分たちにできることを考え、探究テーマを設定する。 3 <u>情報収集</u> ・ハケ岳移動教室で、豊かな自然環境のよさを体感し、レンジャーさんから、森を守る取り組みについて話を聞く。 4 <u>整理・分析</u> ・聞いて分かった事や実際に体験して感じた自然環境のよさを書き出し、話し合いながら情報を分類する。 5 <u>まとめ・表現</u> ・ハケ岳で体験・学んできたことを、テーマ毎に発表し、全体で共有する。(探究チーム) 6 <u>振り返り→課題設定</u> 「学校環境をよりよくしよう」「学校の豊かな自然環境を守ろう」				単元名「いのち×環境ー豊かな自然を守るためにー」【44】 1 <u>オリエンテーション</u> ・ビオトープの中で、思い思いに過ごし、改めて自然のよさや学校環境の魅力（主にビオトープ、丸池）について考える。また、課題となっていること、改善したい点についての考えや思いをもつ。 2 <u>課題設定</u> ・学校の自然環境を守るために大切なことについて考え、探究テーマを設定する。 3 <u>情報収集（フィールドワーク）</u> ・自分たちが実践できること、環境をよりよくするためにやってみたいことを実際に体験、調査する。 （ゴミ拾い、生き物調査、水質調査、野菜栽培、ビオトープ整備、丸池清掃…等） 4 <u>整理・分析</u> ・実際にやってみて分かったことを整理し、次の活動の計画を立てたり、改善案を考えたりする。毎回の活動記録を、スライドや紙に書き出しておく。 5 <u>まとめ・表現</u> ・これまでの活動記録や体験を基に、「これまで実践してきたこと」「活動を通して、今伝えたいこと」「未来の環境への願いについて（取り組んでいきたいこと等）」と観点を分けてまとめ、発表する。（今回は、6年生と保護者） 6 <u>振り返り→課題設定</u> ・これまでの探究活動を通して学んだ経験を基に、今後の自分の生き方について考える。						
	関連する教育活動	ハケ岳移動教室（5月） 道徳「一ふみ十年」「イルカの海を守ろう」				国語「自然環境を守るために」 国語「あなたはこう考える」				思考チャレンジ「未来の環境への願い」 社会「環境を守るわたしたち」国語「子ども未来科」で何をする	
連携する施設・人材	清泉寮自然学校 レンジャーさん ハケ岳ふれあいセンター				昆虫博士（生態系について、探究活動の魅力） 学校用務員				保護者		
児童に身に付けたい資質・能力	【課題設定】 ○テーマを基に、多様な視点から課題を設定することができる。		【情報収集・整理・分析】 ○多様な方法で自分の目的や疑問に即した情報を収集し、図にに合わせて紙面やタブレットに整理することができる。		【まとめ・表現】 ○絵教材等で培った表現力を使い、相手や目的に応じて、仲間と協議してまとめ、表現することができる。		【振り返り→課題設定】 ○プロジェクトや活動結果を振り返り、多様な視点からより深めたい課題を設定することができる。				

探究課題	学校テーマ「未来をつくる富士見っ子」 学年テーマ「いのち×生き方」～これがわたしの生きる道～										
	1学期				2学期				3学期		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
学習活動【時数】	単元名「日光で生き方を学ぼう①」【10】 1. オリエンテーション(6年の探究学習について) 2. 課題設定 (日光ってどんなところ?何が学べるのか) 3. 情報収集 (日光の自然、歴史、文化等テーマごと) 4. 整理分析 (友達に知らせたいことを考える) 5. まとめ・表現 (発表スライドで発表) 6. 振り返り・課題設定 (現地で確かめたいこと等)				単元名「いのち×生き方～これが私の生きる道～」【45】 1. オリエンテーション ・活動や対話を通して自分を見つめる。(アンケート・価値観ゲーム・分析シート等) 2. 課題設定 ・自分はどう生きていきたいのか、課題を設定する。(将来の夢・職業・生き方から) 3. 情報収集 ・ゲストティーチャー・保護者との対話。 ・図書資料、インターネット、インタビューで調べる。 4. 整理分析 ・調べたこと、学んだことを通して改めて自分の生き方について考え、伝え合うために必要なことを整理する。 5. まとめ表現 ・これまで学んだことを友達・5年生・保護者に発表する。 6. 振り返り・課題設定 ・5年生、保護者からのフィードバックをもとに改めて生き方を考え、まとめとして国語科の「今、私は、ぼくは」と関連させて、学んだことをスピーチする。						
	単元名「日光で生き方を学ぼう②」【15】 1. 課題設定 (日光で生き方を学ぶために・インタビュー) 2. 情報収集(インタビューの分担・仕事について) 3. フィールドワーク(日光でインタビュー) 4. 整理分析(インタビューした情報を整理する) 5. まとめ・表現(学んだことを発表) 6. 振り返り・課題設定 (学んだ生き方から自分の生き方を考える)										
関連する教育活動	国語「聞いて考えを深めよう」 道徳「たった一つの命だから」				社会科「歴史の学習」 道徳「みんないっしょだよ」				国語科「知ってほしいこの名言」「今、私は、ぼくは」 道徳「まんがに命を」		
連携する施設・人材	日光移動教室で関わる働く方				器屋さん コーヒー農家 イラストレーター 保護者				保護者		
児童に身に付けたい資質・能力	【課題設定】 ○テーマを基に、多様な視点から課題を設定することができる。		【情報収集・整理・分析】 ○多様な方法で自分の目的や疑問に即した情報を収集し、図にに合わせて紙田やタブレットに整理することができる。		【まとめ・表現】 ○国語科等で得た表現力を活用して、相手や目的に応じて、分かりやすく、仲間と協働して表現することができる。		【振り返り→課題設定】 ○プロジェクトや活動結果を振り返り、多様な視点からより深めたい課題を設定することができる。				

05

情報分科会

育てたい資質・能力

- C1 情報機器基本操作
- C2 情報活用実践力
- C3 プログラミング
- C4 情報モラル

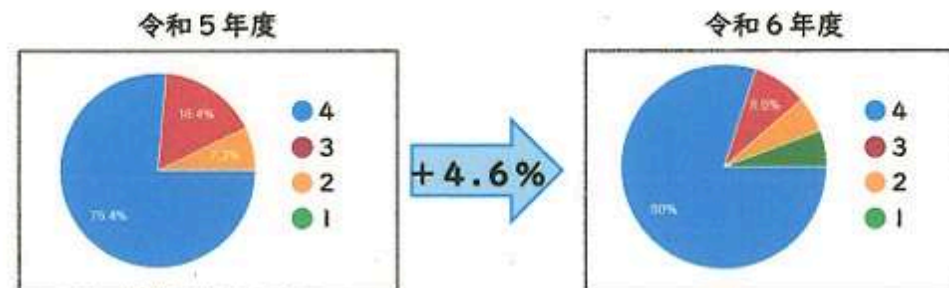
05

情報活用アンケートの分析と考察（1年）

* 情報分科会では、R5年度とR6年度との比較・検証を行った。

1 タブレットの基本操作について

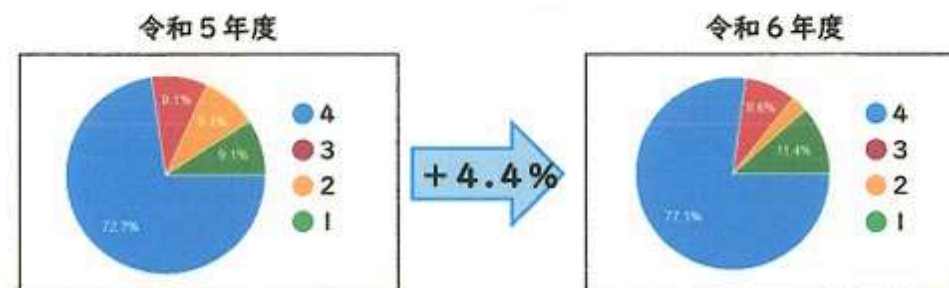
<設問> IDとパスワードを入れて、タブレットにログインすることはできますか。



「よくできる」の回答が、4.6%高くなった。定期的にタブレットを活用した授業を行い、パスワード入力が習慣化していることがうかがえる。一方で、「あまりできない」「できない」と否定的な回答をする児童が合計11.4%ほどいて、昨年度よりも4%ほど高くなってきている。IDカードとキーボード、画面を行き来しながら見るのが難しく、入力スピードが遅くなってしまい、自信をもてない児童がいると考えられる。

2 情報モラルについて

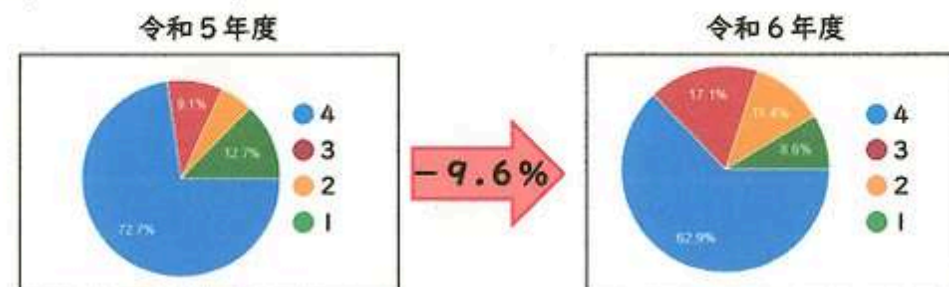
<設問> IDやパスワードは、自分だけで使うものだと知っていますか。



肯定的な回答が、4.4%高くなった。学校ホームページ上にある「タブレットの約束」を確認し、タブレットは自分だけが使えるものであることを理解したうえで、IDカードが見えないよう保管場所を決めた体験が起因していると考えられる。

3 MESHの活用について

<設問> MESH(プログラミング)を、もっと やってみたいですか。



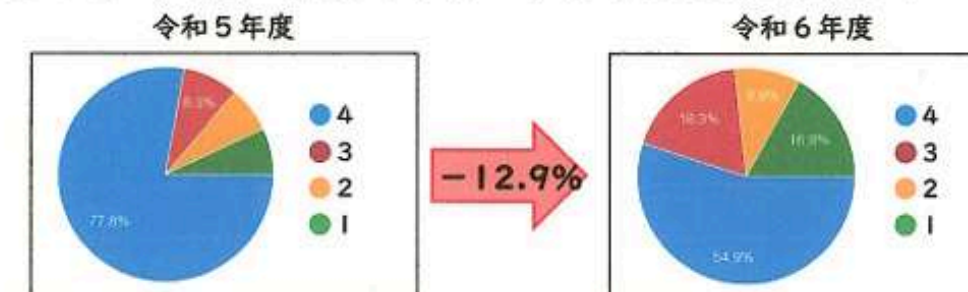
肯定的な回答が9.6%低くなった。なお、今年度の11月にとったアンケートとの比較で見ると、肯定的な回答が5%高くなり、否定的な回答が20%以上低くなっている。アンケート実施時点でMESHに触れていないクラスもあり、MESHに触れる機会が昨年度に比べて減少したことから、その面白さを体感できていない児童がいることが起因していると考えられる。

情報活用アンケートの分析と考察（2年）

* 情報分科会では、R5年度とR6年度との比較・検証を行った。

1 タブレットの基本操作について

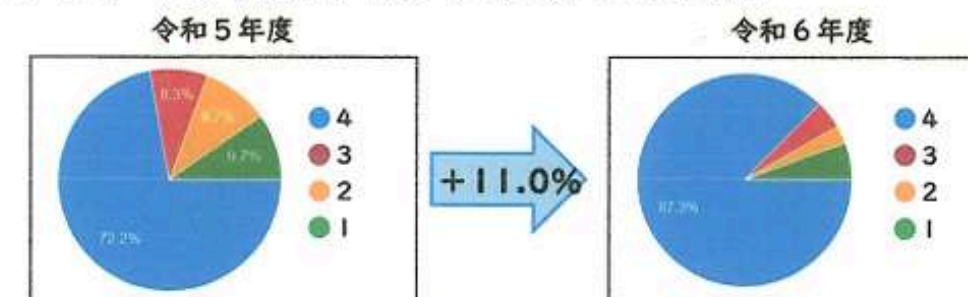
<設問> IDとパスワードを入れて、タブレットにログインすることはできますか？



肯定的な回答が、12.9%低くなった。パスワードを入力してログインすることはできるが、IDを入力することはできない（する機会は少ないが…）と思い、否定的な回答を選択した児童もいる。実態から考えると、用語の理解を適切にしているために、肯定的な回答が低くなったと考えられる。

2 情報モラルについて

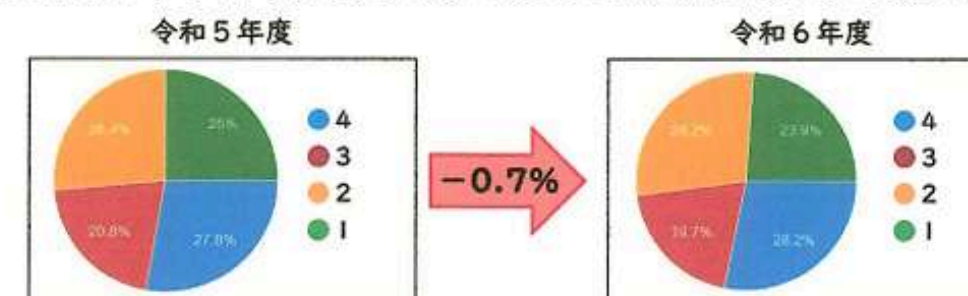
<設問> IDやパスワードは、自分だけで使うものだと知っていますか。



肯定的な回答が、11.9%高くなった。IDとパスワードが名前や住所と同じように個人の情報であり、誰かに教えてはいけないものということを、生活指導の問題と関連させて指導したことにより、より理解度が高まったと考えられる。

3 MESHの活用について

<設問> MESH（プログラミング）を自分の調べたことや発表することにもっと使ってみてみたいですか。



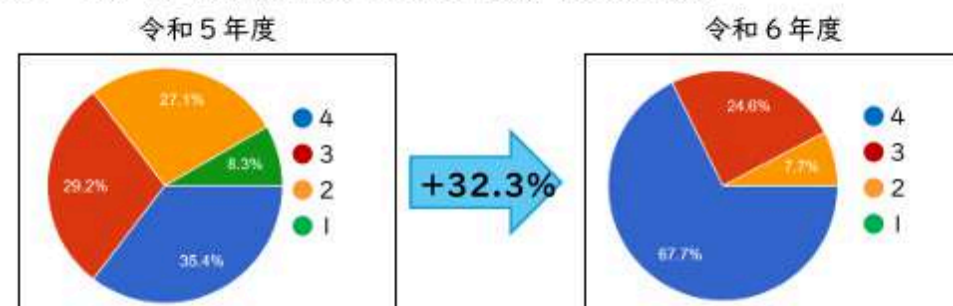
別問では、MESHをもっとやってみたいとの回答が+17.8%と使う意欲は向上したものの、活用することの意欲はほぼ横ばいとなった。具体物が動いたり、ブロックを操作したりする楽しさは感じているが、具体的にどう活用すればよいかが分からず、活用の意欲は変化がほぼないことや約半数しか活用に意欲がないことに起因していると考えられる。

情報活用アンケートの分析と考察（3年）

* 情報分科会では、R5年度とR6年度との比較・検証を行った。

1 タブレットの基本操作について

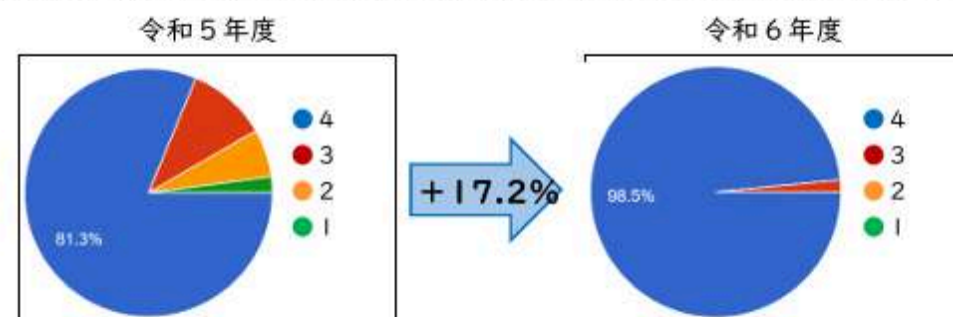
<設問>クラスルームから、課題を見たり、提出したり、できますか。



肯定的な回答が、100%という結果になった。繰り返し学習の中で使うことでクラスルームという言葉覚えて、操作し提出することに慣れてきたと考えられる。

2 情報モラルについて

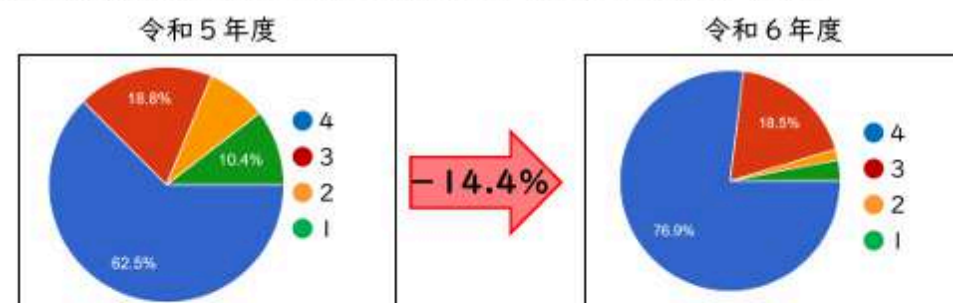
<設問>人の写真を撮るときや、写真を真似して使うときに、許可が必要だと知っていますか。



肯定的な回答が、98.5%と、知っているも含めると100%という結果になった。総合と関連させタイムリーに情報モラルの授業を行ったことで、肖像権や著作権についての情報モラルへの理解度が高まったと考えられる。

3 MESHの活用について

<設問>クラスや学校、地域をもっとよくするために、MESHを使いたいですか



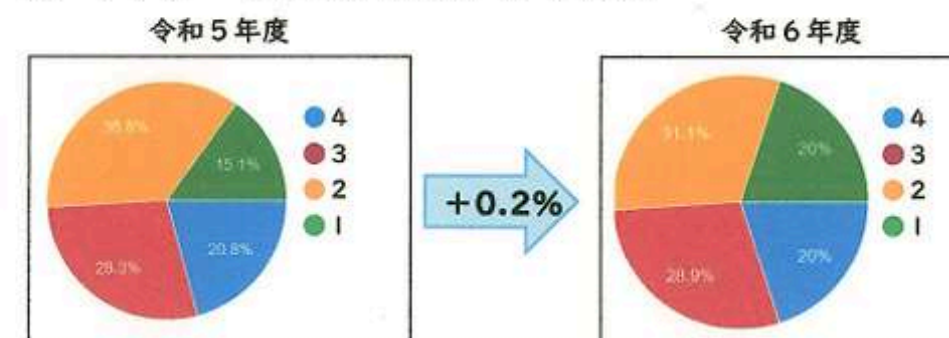
別問では、MESHをもっとやってみたいとの回答が+17.8%と使う意欲は向上したものの、活用することの意欲は14.4%と低い結果となった。「MESHを使って学習したい!」とは思っているが、実生活の中でどのように活用しMESHを生かしていくかという思考まではないと考える。教科と関連付けながら、MESHの活用計画を立てる必要がある。

情報活用アンケートの分析と考察（4年）

* 情報分科会では、R5年度とR6年度との比較・検証を行った。

1 タブレットの基本操作について

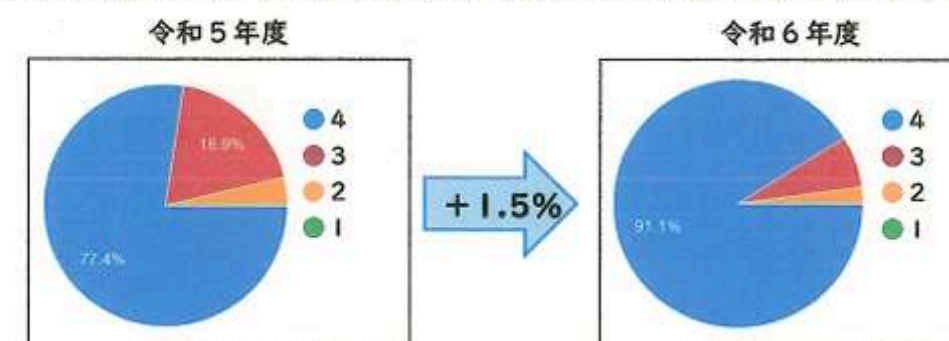
<設問>ファイル・クラウド・フォルダが何か知っていますか?



クラウドやファイルといった言葉について、ほぼ横ばいの状態だった。普段意識をせずにデーター操作を行っている状態が続いていると考えられる。

2 情報モラルについて

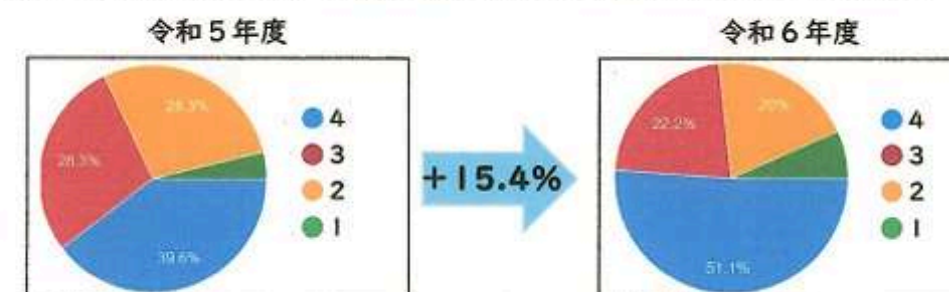
<設問>人の写真を撮るときや、真似して使うときには、許可が必要だと知っていますか。



ほぼ前年度同様の結果となった。情報モラルについて、年間指導計画に合わせて児童を行ってきた結果が反映されていると考えられる。

3 MESHの活用について

<設問>MESH（プログラミング）を自分の調べたことや発表することにもっと使ってみたいですか。



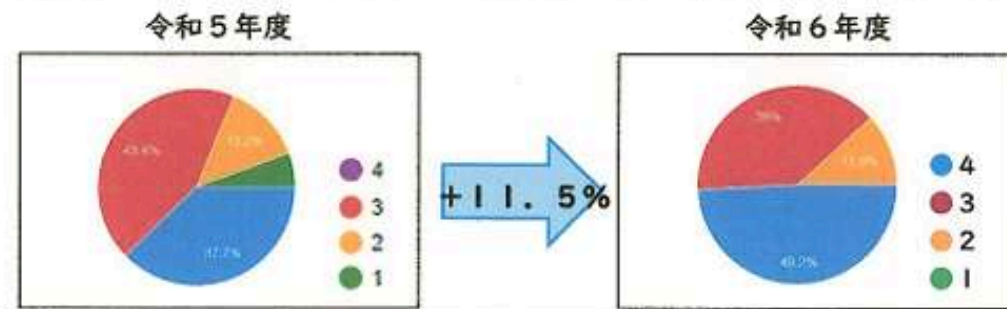
MESHを自分の発表に活用したいという回答が+15.4%向上した。使い続けることで知識やスキルが向上し、様々な活用場面、方法を想像しやすくなっているためと考えられる。

情報活用アンケートの分析と考察（5年）

* 情報分科会では、R5年度とR6年度との比較・検証を行った。

1 タブレットの基本操作について

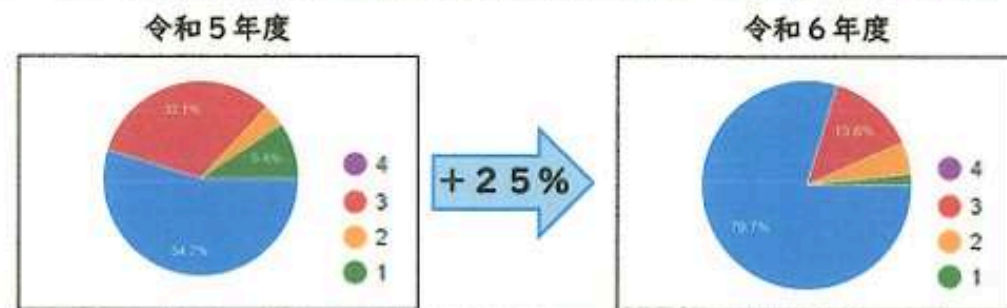
<設問>相手に伝わりやすいようにスライドを作ったり、工夫して発表したりすることができますか。



肯定的な回答が、11.5%高くなった。その他、タブレット操作に関する質問に対しても肯定的な回答が多かった。基本操作を十分に習得したうえで、相手意識をもち資料等を作成する技能を身に付けることができたと考えられる。

2 情報モラルについて

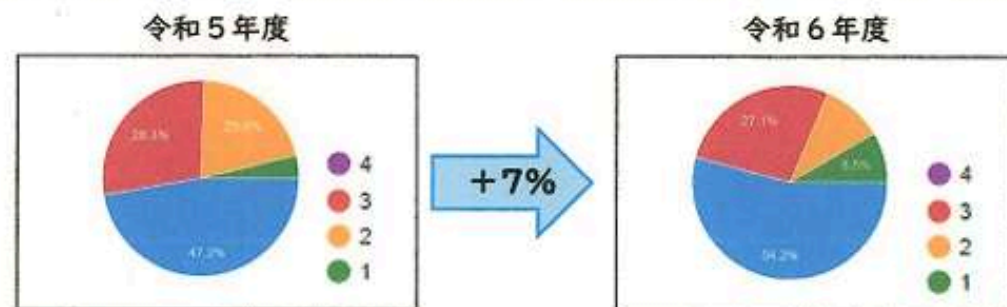
<設問>インターネット上に情報をのせると、簡単には消せないことを知っていますか。



肯定的な回答が、25%高くなった。高学年になり、SNSやスマートフォンに触れる機会が増える中で、生活指導の問題と関連させて指導したことにより、より理解度が高まったと考えられる。

3 MESHの活用について

<設問>クラスや学校、地域をもっとよくするために、MESH（プログラミング）を使いたいですか。



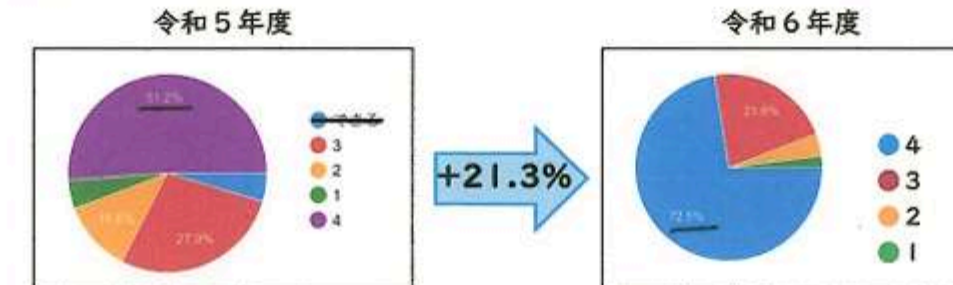
別問でも、MESHをもっとやってみたいとの回答が+12%と、使う意欲は向上した。MESHの性質上、限られた環境下での動作であるが、その性質を生かして、他教科と関連させながら活用できたことが、結果に繋がったと考えられる。

情報活用アンケートの分析と考察（6年）

* 情報分科会では、R5年度とR6年度との比較・検証を行った。

1 タブレットの基本操作について

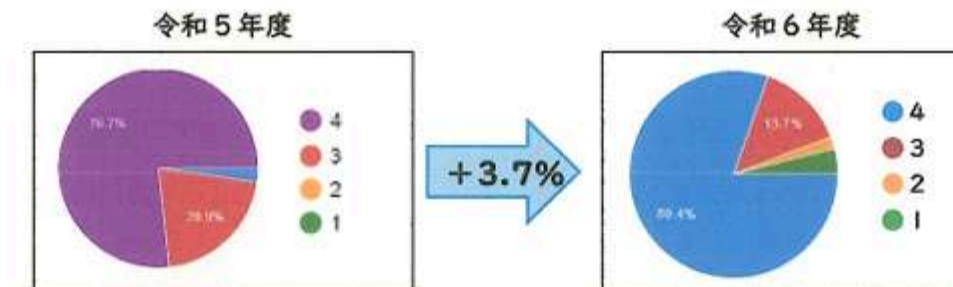
<設問>相手に伝わりやすいようにスライドを作ったり、工夫して発表したりすることができますか。



肯定的な回答が、21.3%高くなった。教科学習だけではなく、委員会や係活動など多くの場面でまとめたり、発表したりする機会を意図的に設けた。基本操作を十分に習得したうえで、相手意識をもち資料等を作成する技能を身に付けることができたと考えられる。

2 情報モラルについて

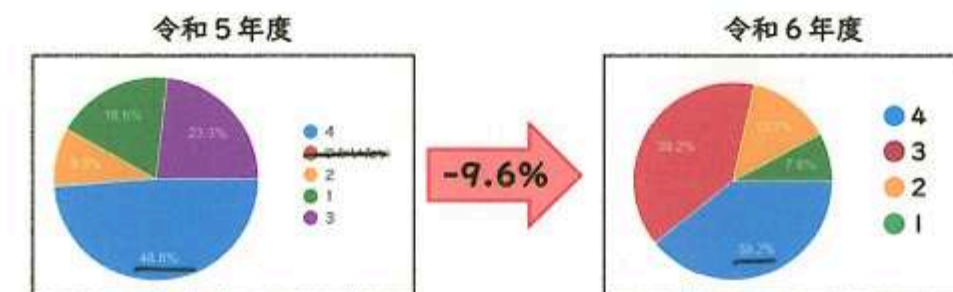
<設問>SNSを使うときは、相手の気持ちを考えて使うことができますか。



肯定的な回答が、3.7%高くなった。SNSやスマートフォンの使用の実態を踏まえ、「個人の情報は、誰かに教えてはいけないもの」ということを、生活指導の問題と関連させて指導したことにより、より理解度が高まったと考えられる。

3 MESHの活用について

<設問>クラスや学校、地域をもっとよくするために、MESH（プログラミング）を使いたいですか。



別問では、MESHをもっとやってみたいとの回答が+4.3%と使う意欲は向上したものの、身の回りの課題解決に活用することの意欲については-9.6%となった。MESHの性質上、限られた環境下での動作であることや、指導計画上の時間が十分ではないことが、意欲の高まりにつながらないと原因と考えられる。

06

研究のまとめ

令和6年度の研究成果と課題
次年度に向けた施策

06

	図書館利活用	論理的思考力（書く）	感性・情緒	伝え合い
成果	計画的な実施 可視化 市民図書館の活用	文章構成	語彙力アップ	調べたことの伝え合い
課題	専科との連携	児童の自己評価 短作文記録の活用	想像力	分かりやすく伝える力
R7 施策	団体貸出の利用を推進	評価方法 短作文記録の活用	想像したことを言語化	発表・表現活動を 効果的に取り入れる

	探究ノート活用	探究学習	系統性	外部との連携	評価の観点
成果	思考ツールの活用	探究的な学びのよさ 主体的に活動 年間指導計画の作成	積み上げ 探究の基盤づくり	フィードバック 指導と評価	児童の実態把握 比較・検証
課題	目的や意図に応じて 活用計画	探究の目的・意図 伝えたい相手 教師の役割・手立て	学びの把握	保護者との連携	児童の「声」を聴く
R7 施策	思考ツールの可視化 タブレットとの併用	イメージの共有 手立て・連携	資質・能力の 積み上げ	繋がりを増やす 連携リスト作成	アンケート活用 学年毎に成果検証

	情報モラル	プログラミング的思考（MESH）	タブレット活用
成果	年間計画の更新	発達段階に応じた評価規準の作成 事例集	手順を可視化 スプレッドシート・ スライド等の活用
課題	実践の不足	端末・実践の不足 教科との関連	教員の能力差
R7 施策	計画的な実践	評価規準に応じた実践	OJTでの研修実施

研究のまとめ（協議会記録）

R6 言語分科会まとめ（○成果 △課題 ☆次年度に向けた施策）

図書館活用（図書館利活用計画の実施等）について ○図書館利活用を授業の中で計画的に実施することができた。 図書館利活用計画の振り返りがあったことで、実施する単元が可視化されたことがよかった。 ○図書資料から選んだ情報を思考ツールで整理する学習を行った。それによって、児童の思考が整理されて、次の言語活動につながった。 ○市民図書館の団体貸出や学校図書館の資料を活用した授業を積極的に実践したことで、児童の図書館活用力が向上した。 △専科教員と連携して、専科の授業でも図書資料の活用を進めていきたい。 ☆学校図書館での活動や市民図書館の団体貸出の利用を推進していく。
読書感想文や短作文、思索チャレンジ等（書くこと）について ○国語科の学習や短作文の時間に「初め、中、終わり」で書くことを意識させることができた。 △発達段階に応じて、児童が自分の到達度を確かめることができるような評価方法（自己評価など）を取り入れていく。それによって、書くことへの意欲を高めると共に主体的に学べるように、振り返る力を高めていく。 ☆発達段階に応じて、評価方法を工夫していく。 △担任によって令和5年度以前の短作文のテーマの記録を見返す頻度が異なっていた。 ☆短作文のテーマの記録について、よりよく活用できる方法を模索していく必要がある。
感性・情緒（読むこと、感じたことを言葉で表現する力等）について ○図書資料を活用したり、国語辞書で言葉を調べたりする活動を取り入れたことで、語彙が豊かになった児童が増加した。 △物語を読んで想像する力を高めていくために、国語科の学習だけでなく、短作文の時間も活用していけるとよい。 ☆短作文の時間に、物語を読んで想像したことを書く活動を取り入れていく。
伝え合い（話す・聞く）について ○市民図書館の団体貸出資料が豊富で、児童が興味に合わせて本を選ぶことができた。そのため、調べたことを伝え合う活動も意欲的に取り組むことができた。 △分かりやすく伝える力を高めていく必要がある。 ☆発表・表現活動を学習活動の中に取り入れていくことで、分かりやすく伝える力を高めていく。
その他（言語分科会の取り組み）について △アンケートを低中高に分けたために実態を把握することが難しかった。 ☆アンケートは学年ごとに実施することで、さらに児童の実態と手立てとの関係を見取ることができるようにしていく。 △低学年の児童の肯定的な意見の割合が他学年と比べて少なかった。 ☆低学年の児童に対して、肯定的に受けとめられるような活動を増やしていく必要がある。

R6 情報分科会まとめ（○成果 △課題 ☆次年度に向けた施策）

【情報モラルについて】 ○ 計画を作り直した。 △ 実践が不足していて、現状では中身が伴っていない。 ☆ 実践していく。
【MESH の活用について】 ○ ・発達段階に応じて評価規準を作成した。 ・事例集も集めている。 △ ・端末が不足している。 ・教科に関連させることが難しい。 ・評価規準に合った実践が不足している。 ☆ 評価規準に合った実践を増やしていく。
【タブレット端末の効果的な活用について（基本操作も含む）】 ○ ・手順を撮影して、動画で提示した。（図工、コグトレなど） ・気づきメモの活用 ・委員会でスプレッドシートを使って活動内容をまとめた。（共同編集） ・低学年では、スライドで意見や振り返りをまとめていった。（個別） △ 教員によって差が生まれている。 ☆ OJT で研修を行っていく。

研究のまとめ（協議会記録）

R6 課題解決分科会まとめ（○成果 △課題 ☆次年度に向けた施策）

探究ノートの活用について ○ 今年度は、探究ノートや思考ツールを意識的に活用し、児童の探究的な学びの基礎を築くことができた。 △ 目的や意図に応じて探究ノートを活用していく。児童が探究ノートを資料集のように活用し、思考ツール等を用途に応じて使い分けられるようにしていきたい。 △ 使用したいページは重複することもある。再度使用する際は書き込めないので、ワークシート等の準備が必要。 △ 6年間の系統性を考え、探究ノートを計画的に活用していく。 △ タブレットでも活用できるといい。デジタル版思考ツールがあることで、何度でも使えて、書くのが苦手な児童への配慮にもなる。ジャムボードなども、効果的な活用方法を検証していく。 ☆ 思考ツールを提示（見える化）していく。
探究学習について ○ 子供が主体的に活動し、その活動が探究の日に繋がってよかった。 ○ 探究的な学びを体感し、そのよさを感じる児童が増えた。 ○ すずんで活動に取り組んでいる児童が多い。 ○ 実践する中で、課題設定（探究テーマ）が重要であることを再認識した。そのため、富士見では、振り返りからの課題設定に力を入れていきたい。 ○ 体験を通して、探究的に学び、児童の興味関心から新たな気付きや新しい問いが生まれ、活動を深掘りしていくことができた。 ○ 各学年が年間指導計画を作成し、探究学習の基盤をつくることができた。 △ 探究の目的・意図・伝えたい相手を意識させていく。 △ 継続して探究することが難しい児童への支援。（主体性は必要だが、ある程度の軌道修正が必要な場合もある。） △ 今後の学年担任制を踏まえ、カリキュラムマネジメントのための教員同士の連携・意思疎通が必要とされる。 △ より児童主体で活動をすすめていくための手立てを増やしていく。 ☆ デザインシートを上手に活用し、探究サイクルを子供と一緒にイメージしやすくする。 ☆ 保育ドキュメンテーションの活用 ☆ 教員の手立てを増やす ☆ カリキュラムマネジメントで、教員同士の連携・意思疎通（時間割の工夫）
6年間の系統性について ○ タブレット発表やポスター等、表現の手段は、学年に応じて積み重なってきているように感じる。 ○ 富士見の系統的な探究の基盤はできたのではないかな。 △ 今後、情報共有・引継ぎ等で、児童のこれまでの実践や学びを教員が把握した上で、学習を積み上げていくことが大切である。 ☆ 児童に身に付けさせたい資質・能力を積み上げていく。 ☆ 思考ツールの活用経験や表現方法等の引き出しを増やしていく。

外部との連携・折衝について ○ ゲストティーチャーとして、たくさんの子供たちと関わってフィードバックをもらうことができた。子どもにとっても、いい刺激になっていた。 ○ 児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、評価の観点と一体化させることで、教師が意識して教育活動に取り組むことができた。 △ 保護者をもっと巻き込んでいけるといい。また、活動の意図や児童の思いも伝えていきたい。 ☆ 教員が積極的に外部や保護者と連携を取り、繋がりを増やしていく。 ☆ 外部との連携リストを作成し、いつでも連絡できるようにしておく。必要な時に連絡できるように。（持続可能にしていく）
評価の観点、児童アンケートについて ○ 児童の実態把握に活用することができた。また、今年度は、7月と1月の児童の変容を比較・検証することができた。 △ 選択型のアンケートだけではなく、児童の「声」が聞けると、より児童の変化を捉えることができるのではないかな。「～について、どのような工夫をしましたか。」重点を一つ絞るなど ☆児童アンケートは今後も継続し、実態把握と児童の変容を検証し、効果的に活用していきたい。 ☆今年度は、低・中・高に分けてアンケートを実施したが、来年度は、学年毎の変容を検証していく。
その他（課題解決分科会の取り組みについて） ☆ 児童の学びは連続しているため、今後は、より系統的な学びについて、教員の連携や情報共有等が必要とされる。また、人とのつながりで世界を広げ、子供たちの視野を広げる種まきをしていきたい。 今後の重点は、 <u>カリキュラムマネジメント & 地域・保護者との連携</u> と考える。 その為に… ☆ 年間時程表に、2時間続き、学年合同の時間を設けることが可能かどうか検討する必要がある。 ☆ 低・中・高で、探究的な学びの研さんをしていってはどうかな。 ☆ 協議会で検討する視点を明確にしておく。 ☆ 児童の実態（学年の実態）を把握し、児童の主体性を生かす工夫、探究学習の中での教員の役割（ジェネレーター、コーチ、ファシリテーター等）、その為の手立て等を研さんしていく。

【重要】

- ☆ 「ふじみの探究」を確認する1年に（より確かなものに）
- ☆ いのち×〇〇を継続（6年間の系統性）
- ☆ 学年（通常＋さくら）で協働学習
- ☆ 子供のゴールイメージ（身に付けたい資質・能力の実現）
- ☆ 振り返りからの課題設定（児童主体へ、他人任せ→自分事に）
- ☆ 板書の記録（写真）
- ☆ 年間指導計画を基にした、改善と更なる開発
- ☆ 各教科の関連性の確認（カリキュラムマネジメント）
- ☆ 分科会は、低・中・高
- ☆ 研究授業（年3回）分科会全員で、指導案を作りあげていく
- ☆ 地域・保護者との連携（外部連携リスト更新）



令和7年度 研究テーマ

創造力・表現力に富み正解のない課題に 納得解を導く児童の育成

～語り合い、振り返りからの課題設定～